

令和4年度第3回宇部市環境審議会議事録

日時：令和5年3月29日(水) 13時30分～16時10分

場所：宇部市総合福祉会館4階 大ホール

1 報告事項（事務局報告）

- (1) 第二次宇部市環境基本計画進捗状況（宇部市の環境）について
- (2) 第二次宇部市生物多様性地域連携保全活動計画の策定について
- (3) 宇部市環境審議会における研修会の実施について

2 報告事項（事前協議報告、環境事故等報告）

- (1) 12期ポリイミドフィルム製造設備設置に伴う環境汚染の未然防止対策について
- (2) 有害物質等の燃焼（大気放出）事故について
- (3) 排水における協定値の超過について
- (4) NO_xガスの放出事故について
- (5) 石膏スラリーの漏洩事故について
- (6) 水酸化マグネシウム白濁水の漏洩事故について
- (7) フロンガス（R22）の漏洩事故について

3 出席者（順不同、敬称略）

<委員>

市 民：加藤泰生、熊毛千恵

学識経験者：奥田昌之、山本浩一、三上真人、福代和宏、吹上静恵

企業代表者：毛利勇、高瀬太

民間団体：竹重真由美、木原裕子、新谷弘昌

<宇部市>

市民環境部：原田部長、黒瀬次長

環境政策課：村岡課長、西岡副課長、大村係長、高瀬係長、高尾主査、岡主任

廃棄物対策課：中村課長

環境保全センター施設課：田中課長

4 議事概要

<事務局>

宇部市環境審議会条例第5条第3項の規定により、本日の会議が成立していることの確認（委員数16名に対し過半数の12名参加。）。

配布資料の確認。

第二次宇部市環境基本計画進捗状況（宇部市の環境）について

<事務局>

宇部市の環境について、事前の質問はなかったため、第2次基本計画の総評ということでご報告します。

（「(別紙) 環境指標項目の一覧」に沿って説明)

総括として、宇部市の生活環境にかかわる大気、水質、騒音振動、土壌について、一部で未達の項目はありますが、概ね環境指標項目を達成しており、良好ととらえています。これを踏まえて、第二次環境基本計画の取組を継承しながら「緑と花と彫刻に囲まれた豊かな自然と住みよい環境が共存する持続可能なまち宇部」であるために第三次宇部市環境基本計画において、環境行動を自ら実践できる人を育成し、持続可能なまちづくりを推進していきたいと考えています。

・「1人1日当たりのごみ排出量」について

3R講習会の実施や自治会等の資源物回収の奨励等により、ゴミ排出量は減少傾向であるものの、未達成。可燃ごみに資源物が含まれるなど分別の不徹底や、食品ロスの削減が課題。これまでの3Rの取組の更なる周知、新たなゴミ減量施策の検討をしていく。

・「リサイクル率」について

課題として、分別の不徹底がある他、少子高齢化の進展に伴う集団回収実施団体の減少などが影響。取組の更なる周知や今後新たなリサイクル手法を検討していく。

・「アクトビレッジおので体験学習する人数」について

ハープ教室やカヌー教室、小学生向けの環境学習など実施し、参加人数は増加傾向にあったが、新型コロナウイルスによるイベントの中止や縮小により未達。新しい生活様式を意識した活動により参加人数増加となるよう取り組んでいく。

・「環境出前講座の実施回数」について

コロナ禍における行事自粛の影響もあり未達。地域における大事な環境学習の機会の場であり、実施回数増となるよう努めていく。

・「エコアクション21取得企業数」について

取得企業数は増加しているものの、県内の地域事務所がなくなったことや、認証取得によるメリットも少なく取得に対する機運が下がってきている。民生業務部門のCO2削減対策としても、省エネ最適化診断の受診について支援していく。

・「カーボン・オフセットを実施した事業数」について

近年は、UNCCA事業の1件を毎年度の実績として積み上げている状況。やまぐちエコ市場カーボン・オフセットシステムの運営が終了するなど県内の機運も下がってきている。

・「一斉ノーマイカーデー実施事業所数」について

市ウェブサイト等で市民・事業者への周知を行い、実施事業所自体は増えているが、夜間勤務がある臨海工場群のようにマイカーの代替手段の選択肢がない場合もあり未達成。啓発に努めていき参加団体を増やしていく。

・「厚東川上流域で水源保全体験に参加する人数」について

ポスター掲示等周知活動を行ってきたが、若年層の参加が少なく、特に近年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、参加人数の制限やイベントを中止したこともあり目標値には届かなかった。今後コロナが落ち着いてくれば、参加を募っていきたい。

<加藤委員>

コロナの影響で未達となったものはアクシデントのようなものなので、×ではなく何らかの形でしるしをつけるとかして、あとあと見るときに説明を聞かないと何で×になったんだろうとなると思うが。

<事務局>

注釈等をつけて、一覧表にしたい。(審議会終了後「△※」に修正)

<新谷副会長>

リサイクル率が 32 から 29.6 に落ちているが原因が分かっているならば教えてほしい。

<廃棄物対策課>

32 から 29.6 となっているが概ね横ばいであり、30%前後を上がったり下がったりしている。

<新谷副会長>

環衛連などから市民に知らせるということがほとんどだと思うが、もうちょっと強く、リサイクル率がこんな感じだから宇部市も頑張るから皆さんも頑張ってくださいと、申し添えるものがあつたらいいと思う。

<廃棄物対策課>

了解した。説明にもあったが、年々集団回収が数字として落ちてきている。少子高齢化で子供会活動が減ってきているといこともあると思うので、その辺も含めてケアしていきたい。

<福代会長>

事業者が 24 時間ゴミの回収をしているところがある。こういうのがカウントされないと、バランスが崩れる気がする。計算の際にどこを数えているのか、何を回収すればリサイクル率が上がるという、何を努力すれば良くなるかというのが伝わらないとあがらないのではないかと考えている。山口市はゴミの回収日のアプリがあって、いつどんなゴミを回収するというアプリを作っている。ごみの出し方について、お知らせする仕組みというものもそのうち必要になるのではないかと考えている。リサイクル率を上げるために何をしたら良いかが明確になっていいのではないかと。

<廃棄物対策課>

収集日の案内については校区ごとにメールサービスで案内するシステムはあるが、周知については足りない部分もあると思うので、周知について PR していきたい。

第二次宇部市生物多様性地域連携保全活動計画の策定について

<事務局>

第二次宇部市生物多様性地域連携保全活動計画(素案)に基づき説明

<新谷委員>

23ページに記載される里山ビオトープ二俣瀬だが、担い手の高齢化等により活動継続が困難だと伺っている。自然と触れ合うことの出来るよい場所だと思うのでなくなってしまふのはもったいない。このような状況を市では把握しているか、また何か支援等はできないか。

<事務局>

環境分野に限らず高齢化やそれに伴う担い手不足は各種団体共通の悩みだと認識している。一方、行政側もマンパワーが充足しているわけではなく、また行政が主導することを好ましく思わない方も一定数いらっしゃるため、なかなか介入しづらい部分がある。ご指摘のビオトープについては次年度にまずは市と地元の考え方のすり合わせを行った上、お互いが出来ることをやっていくことを想定している。当地の目的は、子供たちの環境学習のフィールドとしての活用が一番と考えており、小学校との連携等によりフィールドの活用をすすめていきたい。フィールドとしては、ときわ公園、アクトビレッジおの等他にもあり、必ずしも里山ビオトープ二俣瀬にこだわるわけではないが、多面的にフィールドを活用していく方法を今後検討していくつもりである。

<山本委員>

28ページに記載される生物多様性応援団はどのような組織になるか。このようなものへ参加を広く呼び掛けることは担い手不足解消の一つの手段とならないか。

<事務局>

興味・関心がある人だけが生物多様性保全に関わるのではなく、関わる人のすそ野を広げることはこの計画の目指すところである。例えば、小学校でチラシをみて自然環境学習会に参加したご家庭が、それをきっかけに応援団に登録し、また別の活動を楽しんでくれるといった緩い関係性を想定している。まずは知ってもらうことがスタートになると認識しており、様々な人を巻き込んでいく方策を今後も検討していきたい。

<福代会長>

人が集まるには、楽しさ、金銭的なメリット等何らかのインセンティブが必要で、近年オープンバッジという知識・スキル・経験を見える化するようなツールも存在する。こういったものの活用も視野に入れながら、人を楽しませる、人をひきつけるためのアイデアを今後も検討していただきたい。

宇部市環境審議会における研修会の実施について

<事務局>

資料1に基づき説明

委員からの質問等なし

12 期ポリイミドフィルム製造設備設置に伴う環境汚染の未然防止対策について

＜UBE株式会社宇部ケミカル工場西地区＞

資料2に基づき説明

＜三上委員＞

二酸化炭素、エネルギー起源が15,000トン増えるという話だったが、4ページの大気関係では「自家発電所のボイラー負荷に変動ありません」とある。実際には変動があるということか。

＜UBE株式会社宇部ケミカル工場西地区＞

自家発電所では余った分は中電に売電していて、新しい施設により売電量が減っている。

＜三上委員＞

CO₂が増えるということは大気関係も変動があるということではないのか。

＜UBE株式会社宇部ケミカル工場西地区＞

発電所では温室効果ガスは別に計算しており、CO₂は使った電力より算出している。工場の発電量とは関係が無いと思っていただければよい。

有害物質等の燃焼（大気放出）事故について

＜UBE株式会社宇部ケミカル工場東地区＞

資料3に基づき説明

委員からの質問等なし

排水における協定値の超過について

＜UBE株式会社宇部ケミカル工場西地区＞

資料4に基づき説明

委員からの質問等なし

NO_xガスの放出事故について

＜UBE株式会社宇部ケミカル工場西地区＞

資料5に基づき説明

＜奥田委員＞

この事故は今回の報告の中で、人への影響が最も大きい。資料では NO₂ が 20ppm という濃度で出ている。ラットは 57.5ppm で 100 匹中 50 匹が死ぬ。人に当てはめると 5ppm なので 20ppm は非常に高い。普通の環境では 0.1ppm よりずっと少ないというのは報告書にあるとおりで、非常に高い濃度で出ている。今回広い範囲で 20ppm 以上あったらと想定するが、良かったのは発散源が非常に高いところだった。風向きが北からで南の方に流れていき住居地がないということで事故は防げたが非常に高い。そういうリスクがある事故だと認識していただきたいというのを説明するのが私の仕事だと思ったので、説明させていただいた。

石膏スラリーの漏洩事故について

＜チタン工業株式会社＞

資料 6 に基づき説明

委員からの質問等なし

水酸化マグネシウム白濁水の漏洩事故について

＜宇部マテリアルズ株式会社＞

資料 7 に基づき説明

委員からの質問等なし

フロンガス（R22）の漏洩事故について

＜太陽石油株式会社山口事業所＞

資料 8 に基づき説明

委員からの質問等なし

高瀬副会長より離任の挨拶

事務局より

＜原田部長＞

委員の皆様におかれましては、年度末の慌ただしい中お時間を頂戴し、貴重な御意見をいただきましたこと、御礼を申し上げます。

また、高瀬副会長には長期にわたり、この審議会にご尽力いただき、誠にありがとうございました。

今回は、「第二次宇部市環境基本計画」の最後の年の報告となりました。令和 4 年度からは「第三次宇部市環境基本計画」の計画対象期間となり、これまでいただきましたご意見を踏まえつつ、設定した目標の達成に向けて取り組んで参ります。

今後とも御指導いただきますようお願い申し上げます。